

ツーン・ジエム・ショー2022



**Face Covering
Required for
Admittance**



JGS

一般社団法人
日本宝石協会
General Incorporated Association
Japan Gem Society

日本宝石協会 JGS 監事
日独宝石研究所
古屋 正貴

2年ぶりのツーソン

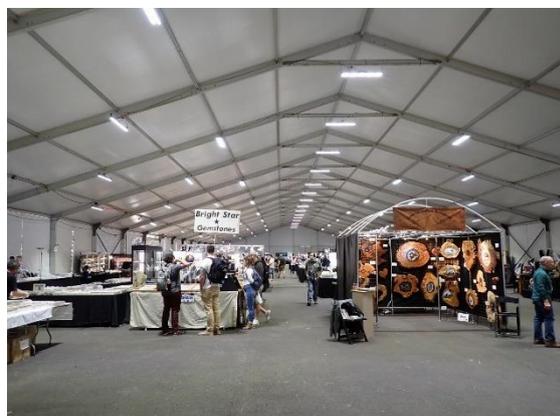
前回ツーソン・ジェム・ショーが行われたのは、新型コロナが世界的に広がる兆しを見せていた2020年1月末～2月であった。その際、一緒に会食した方が、食事の前にアルコール消毒を冗談にしていた余裕があった。しかし、その後1ヶ月の間にアメリカ全土がロックダウンになったのは、言うまでもない。

翌年2021年は、新型コロナのために多くの展示会が中止された。そのため、実質2022年は2年ぶりのツーソンの展示会となった。しかしながら、その来場者は例年通りとはいかなかった。新型コロナの影響は依然として大きく、日本を始め、アジア諸国の多くでは長く厳しい隔離が求められるため、アジア系の来場者や出展者はだいぶ少ない印象だった。

しかし、南北アメリカ、ヨーロッパからは例年に近い参加があった。展示会の後半に話を聞くと、多くの出展者から、2年分というわけではないが、売上は非常に良かったという話だった。



会場の隅の奥にある出展者がいないブース (Holidome)



まばらな来場者の新しい展示会

変わっていく展示会

また、展示会の構成も大きく様変わりしていた。大きな変化のきっかけは Arizona Mineral & Fossil Show (Tucson city center、旧 Inn Suite)の展示会がなくなったことだ。そのため、この大きな展示会の代わりとして、出展していた業者が集まって、以前の場所より2kmほど北の倉庫街を改装し、Mineral City Showとして、2020年から新しい展示会を始めた。今年はそれがより大きくなっていて、また、Mineral City Show に来る来場者目当てに近くで別のテントを用いた展示会も開かれていた。

このようにいろいろな展示会も変わっていったため、既知の出展者がどこにいるか、はたまた今年来ているのかもわからず、かなり無駄に動かざるを得なかったという印象である。しばらくは各展示会の出展者、集客力、それらによって決まる位置づけなどが流動的になるだろう。来年はきっと新型コロナもさらに落ち着き、日本からいらっしゃる方も多いだろうが、このような混乱があることを踏まえて、長めの予定を組んでいただくのが良いだろう。



新しい展示会の Mineral City Show



倉庫を改装した Mineral City Show の内部

高くなる宝石

展示会全体としては売上が良かったとされる一方で、出展者から供給に対する懸念の声が聞かれた。「この値段で売るのはいいが、今仕入れたら次は同じ値段では売れない」という。未だに多くの宝石産地の採掘、供給が回復していないのがその理由である。特に宝石の産出国には途上国が多く、ワクチンの接種率なども低いままで、供給の回復は、市場の回復より遅れている。そのため、単純に価格が上がっていることを随所で感じた。個人的な印象では新型コロナ前に比べ、ドルベースで見ても鉱物で 20-30%ほど、宝石では 20-50%ほどの値段が上がっていた。

先に説明した鉱山からの産出が減ったことによる価格の上昇は、特にアフリカの宝石でより大きいようだった。特にタンザニア・マヘンゲの赤、ホットピンクのスピネルの値段の上昇が際立った。

他にはスリランカでもサファイアの値段が変に上がっていると言われ、中間業者からはあの値段ではだれも利益が出ず、買う人はいないだろう、という嘆きの声が聞かれた。ただ、これらの石については一時的な高騰という人もいて、そのような見方では今年の後半には落ち着いてくるのではないかと、という見立てだった。

なお、すでに産出が止まってしまった宝石についてはさらにひどい状況であり、特にアメリカのベネトアイトや、ドイツのアウイナイトなどは大変なものでmベネトアイトでは 2ct の石で 1 万ドル/ct というのはダイヤモンド以上ではないだろうか。



高騰するスピネル（アフリカ産、ベトナム産）

比較的求めやすい宝石

決して安くなっているわけではないが、他に比べて割安感があったのが開発の進んでいる宝石で、ロシアのデマントイド、アメリカのロードクロサイトなどだった。デマントイドは 2018 年に Korkodino 鉱山のオーナーに大手の業者に加わり、潤沢な資金によって鉱山のリノベーションが行われ、産出も整ってきたようで良質なもので豊富な在庫が見られた。同じくアメリカ・スイートホーム鉱山のロードクロサイトも、新しいデトロイト・シティ・ポータル

（坑道）の開設によって 2019 年、2020 年には豊富な産出があったため、カット石には豊富な在庫が見られた。しかし、2021 年は全くよい鉱脈に当たらなかったため、今後の産出は未定で今はタイミングがよいのは間違いないだろう。

その一方、値段が変わっていない宝石も見られた。例えば、ナイジェリアのサファイアの売りは「唯一、同じものが安定的に手に入る宝石」ということだったが、今後も同じ値段、品質での供給を保証できるという話だった。また、今となっては価格の優等生であるタンザナイトも求めやすい価格であった。また、少し意外だったのはエチオピアのエメラルドで、青みの強いきれいなものが求めやすい価格で供給されていた。近年の産出が多かったというより、在庫が放出されたということだと伺った。



青みが強い緑が美しい、エチオピア産エメラルド

新しいツーソンの名所

アルフィー・ノービル宝石鉱物博物館

また、今年から宝石に関わる者にとってツーソンの新しい見どころが加わった。それが昨年7月に開館した、アリゾナ大学アルフィー・ノービル宝石鉱物博物館である。AGTA や GJX の会場から徒歩3分のダウンタウンに出来た博物館には、1100m²のスペースを誇り、文字通り、世界中から集められた、3,000個以上の標本が展示されている。展示されているこれらの標本は、著名なコレクターからの貸出品とアリゾナ大学所有の20,000点以上のコレクションからなるもので、毎年20%程度がローテーションされる予定ということで毎年の楽しみにもなりそうだ。

この博物館の名前は、ツーソン市の著名な不動産デベロッパーであり、鉱物コレクションの主要な寄贈者であるアラン・ノービル氏が、亡くなられたアルフィー夫人に因んでつけた名前である。アルフィー氏はGJXの共同創業者でもあり、彼女の「ツーソンを鉱物、宝石、ジュエリーの一大拠点にする」という夢が実現したものである。

鉱物の展示では、標本が素晴らしいだけでなく、その分類がユニークだった。一般の鉱物博物館で用いられている化学組成や結晶構造などによる分類とは異なり、地球の歴史の軸でどのような鉱物が出来てきたか、という展示方法が用いられており、まるで地球の成長、変化とともに生まれてくる鉱物を見られるようで非常にエキサイティングである。

また、宝石については素晴らしいコレクションで知られるSomewhere in the rainbow財団がバックアップしており、私が訪問した時には116.76カラットの「メラニのライオン」と呼ばれるツァボライトガーネット（後日、スミソニアン博物館で展示）を始め、14ctのパライバ・トルマリンのペンダントの他、巨大なサンタマリア鉱山のアクアマリンなど息を呑むような素晴らしいものがあふれている。

ツーソンにいらっしやる機会があればぜひこの博物館にも訪問する時間を取っていただきたい。

コロナ対策とジャパン・パッシング

今回のツーソンの訪問を実現できたことには改めて感謝したい。特に家族に医療従事者がいる筆者にとって、実際今回の展示会はかなりストレスが高いものであった。会場の入り口ではマスクの着用をチェックされたり、随所にマスク着用を促す看板がみられた。しかし、実際マスクをつけている人は半数ほどで、それも布マスクがほとんどである。当然、展示会の後半になると、マスクなく咳き込む人が多くなっていくのが露骨に感じられた。

一方訪問者の多かったヨーロッパでは状況はだいぶ異なり、例えば、ドイツではではワクチンを摂取していれば、帰国前のPCR検査も入国時の隔離もなく、帰国できるということだった。日本では新規の外国人の入国さえも制限していた時期である。繰り返しになるが、消費国では消費の回復は早く、逆に産出国では採掘の回復が遅れている状況であり商品の取り合いが起きている中でこの対策の違いである。結果としてジャパン・パッシングが起きていることを痛切に感じた。

なお新型コロナに関して、一つのエピソードを紹介したい。展示会で非常に厳密な対策を取っていた出展者に出会えた。日本の対策を褒めてくれ、展示会に出るスタッフには毎朝抗原検査を行っているということだった。もちろん、スタッフはみなマスクをしていた。しかし、展示会の後半になると半分ほどにスタッフが減っていた。何うと陽性になったからだということだった。皆さんが軽症か、無症状ということでホッとしたが、咳き込んでいても展示会にいる人もあれば、無症状でも欠席する人もいる。今回の展示会の状況を象徴したものだと思われた。これからもまだ流動的な状況は続くと思われるが、魅力的な宝石を探していただきたい。



Gem Gallery のパライバ・トルマリンの展示
アルフィー・ノービル宝石鉱物博物館